



学校だより



5月号

令和 6年 4月30日
横浜市立善部小学校
校長 朝川 健太郎

いじめの積極的な認知

校長 朝川 健太郎

新学期が始まって1か月が過ぎ、子どもたちも新しい学年での学校生活に慣れてきたようです。4月17日(水)には1年生を迎える会が実施され、今年度初めて全校児童が校庭に集まりました。4・5年生が企画したゲームやクイズに楽しそうに参加している姿や6年生からメダルのプレゼントを受け取って嬉しそうにしている姿を見て、1年生が安心して小学校生活が送れていることを実感しました。



善部小学校では、1年生が安心して小学校生活が送れるように「スタートカリキュラム」を実施しています。「スタートカリキュラム」とは、幼稚園や保育園と連携し、幼児期の学びを生かしつつ小学校での学習に段階的に移行していくようなカリキュラムの編成です。具体的には、登校したらしばらくの間好きな場所で好きなことをして過ごす「のびのびタイム」を導入したり、担任や友達と仲良くなるための時間である「なかよしタイム」を設けたりするなど、通常の時間割に捉われずに弾力的に時間設定をして、少しずつ小学校生活に慣れるような工夫をしています。また、幼稚園や保育園との交流も積極的に行っていく予定です。

さて、本校では毎月「いじめ防止対策委員会」を開催し積極的ないじめの認知を心がけています。「善部小学校いじめ防止基本方針」(上記 QR コードよりホームページにて確認できます)に記されている通り、個々の行為がいじめに当たるか否かの判断はいじめを受けた児童の立場に立って行います。本人、保護者からの訴えだけではなく、年2回行ういじめアンケートや児童との教育相談などからも状況を把握し、冷やかしかからかい、軽くぶつかる、叩くなど大人が気づきにくい「いじめ」も積極的に認知することで、昨年度226件のいじめを認知しました。いじめを認知した児童に対しては児童支援専任を中心として組織で対応し、安心して学校生活が送れるようになるまで児童に寄り添って見守りを続けます。また、不登校児童への支援については、可能な限り保護者・本人と連絡を密に行い、スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)、関係機関とも連携しながら対応を検討していきます。いじめの未然防止に向けては、「豊かな心の育成推進プラン」をもとに自己肯定感や充実感を感じられるような学習活動を行うとともに、人権教育を推進して、いじめを絶対に許さないという雰囲気を作ります。

いじめは「どの学校にも、どのクラスにも、どの子どもにも」起こりうる、子どもたちにとって最も身近で深刻な人権侵害です。いじめ根絶をめざして家庭、地域、学校が手を携えて、だれもが、安心して、豊かに生活できる学校づくりを進めていきたいと考えています。ご理解、ご協力をよろしくお願い致します。